

ふるさとを愛し 明るく かしこく たくましい子どもの育成



T A K A M A T S U
たかまつ

学校だより
令和6年9月5日
寒河江市立高松小学校
校長 菊地友則

実りの2学期スタート

～「自分と相手を大切にできる力」をつけて成長しよう～

パリ・オリンピックが開催された今年の夏休み期間が終わり、8月22日（木）から2学期がスタートしました。酷暑、大雨、地震、台風、感染症などの不安もあったこの夏、子どもたちが元気に登校する姿はなによりうれしいことです。8月1日の市制70周年記念・さがえ未来トークでは、6年生の國井祐吾さんが高松小を代表し、私たちが住みたい30年後の寒河江の姿について立派に発表しました。



始業式では、オリンピック選手が、勝っても負けても、相手や応援に感謝し、自分の目標に向かって努力する姿の素晴らしさについて話しました。本校が育成をめざす資質・能力のひとつである「人とかかわる力」の「自分と相手を大切にできる気持ちをもって行動することができる」の手本として取り上げました。1年で1番長く、賢くなる実りの2学期を、選手たちのように「自分と相手を大切にできる力」を身につけて成長することを期待しています。

市民文化会館で未来の寒河江を語る國井祐吾さん。

SOSの出し方・受け止め方学習会

夏休みに入る直前の7月24日（水）に、全校生と保護者を対象に「SOSの出し方・受け止め方学習会」を行いました。様々な困難・ストレスへの対処方法を身につけるための教育（SOSの出し方教育）が広まっており、今回は山形県保健医療大学大学院の安保寛明教授よりご指導をいただきました。安保先生は、NHK番組「チコちゃんに叱られる」のご出演でも知られており、終始和やかにあっという間の1時間でした。

安保先生の授業は、さまざまな手法で子供たちにSOSを出す意義や方法をわかりやすく伝えるものです。特に印象的なのは「紙風船」の話。紙風船と同じように心もしぼむと自力では治せないため、一人で抱え込まずに誰かの助けを借りることを訴えかけます。

話すこと、自分を大事にする大切さ、そして大人がそれを敏感に察知する関係性について考えさせられました。



親子で体験！親子フェスタ

7月13日（土）にPTA親子フェスティバルが行われました。各学年で趣向を凝らした親子の体験活動を行うことで、思い出づくりとともに暮らしや将来につながる力を育てることがねらいです。PTA役員、講師の方のご準備、保護者の皆様のご協力のおかげで今年も大盛況でした。



4年手打ちうどん



3年カレーづくり



5・6年お仕事体験ツアー



2年ランタンづくり



1年陶芸体験

【ご協力いただいた講師の皆様】（協力：高松交進會様 市商工会青年部様）
◇木村ぶつだん様 ◇寒河江測量設計事務所様 ◇相原塗装店様
◇つつじの家様 ◇レッド・パール様

教職員不審者対応訓練

夏休み中に県警察本部のご指導による教職員の訓練をしました。実際に不審者を想定して緊張感をもって訓練を行い、貴重な対応のアドバイスをいただきました。

玄関の施錠、来校者の確認等、これからもしっかりと対応を心がけますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

学校保健委員会

7月31日（水）に、校医、保健師、教育委員会、区長会長、PTA代表の方々と児童の健康・安全について話し合いました。

様々な取り組みにより、本校児童のメディア使用時間等は改善傾向ながら、なお約束や外遊びを大事にすることを広げていきたいと考えています。